



RS ROOF SHIELD

RS ルーフシールド

RS ROOF SHIELD

幅広い下地適正

窯業系屋根、金属系屋根の素材に対して優れた付着力を発揮するとともに、各種旧塗膜との密着力にも優れます。

優れた防さび性

構造物さび止めペイント(JIS K 5551 A種)と同等レベルの防さび性を有します。

太陽光(赤外線)反射性

上塗塗料を透過した太陽光(赤外線)を効率よく反射します。



窯業系屋根材の適用範囲

「RSルーフシールド」を使用した3工程仕様は、表面劣化度(中)までの窯業系屋根材に適用可能です。表面劣化が進行した表面劣化度(大)の場合、下塗に「RSマルチシーラー」を使用し脆弱層の表層強化処理を行った後「RSルーフシールド」を塗装してください。

表面劣化度(小)

目安 新設後、又は塗替え後
10年程度経過した屋根材



塗膜の剥がれ等が部分的に認められるが、下地は健全な状態。

表面劣化度(中)

目安 新設後、又は塗替え後
10~15年経過した屋根材



塗膜の剥がれは(小)より認められるが、下地は健全な状態。

表面劣化度(大)

目安 新設後、又は塗替え後
15年以上経過した屋根材



全体に塗膜の剥がれが見られ、下地表面層は脆く、吸込みが大きい状態。

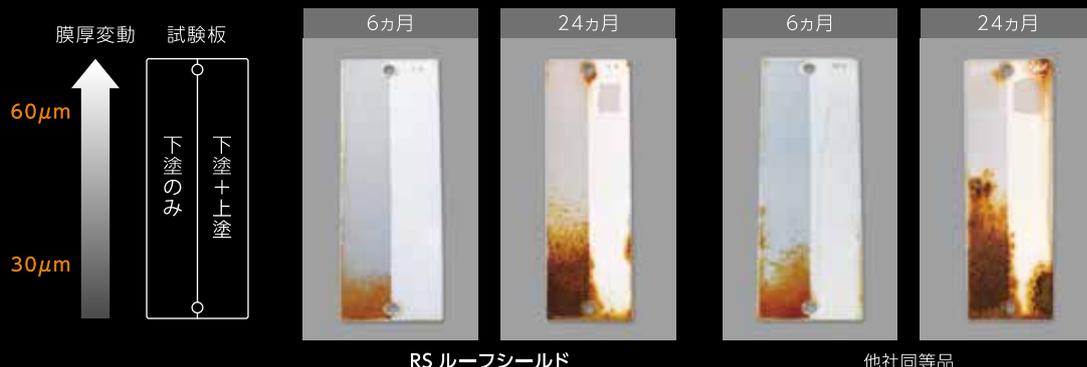
[注意] 表面劣化度(小)、(中)でガムテープによる付着試験で下地表面層に及び塗膜剥離が見られる場合は、下塗に「RSマルチシーラー透明」または「ヤネ強化プライマー-EPO」を使用し脆弱層を強化後「RSルーフシールド」を塗装してください。

金属系屋根材の防さび性

「RSルーフシールド」は金属系にも適用します。

屋外バクロ試験結果から「RSルーフシールド」は他社同等品以上の防さび性を有します。

千葉県千倉における屋外バクロ試験結果(6ヵ月→24ヵ月)



RS ルーフシールド

他社同等品

窯業系・金属系まで幅広い下地適正を有した
環境対応型屋根用オールマイティプライマーです。

下塗塗膜の
分光反射率
(JIS K 5602 準拠)



測定機器: 株式会社 備島津製作所 Solid Spec-3700

測定方法: 黒色系の屋根素材の上に「RSルーフシールド～RSルーフ2液Siと一般さび止め～一般屋根上塗」を塗装して日射反射率を測定。

塗装仕様	色合い	赤外線反射率 (%)
RSルーフシールド	ジェットブラック	43.4
RSルーフ2液Si	チョコレート	42.6
一般さび止め	ジェットブラック	5.3
一般屋根上塗	チョコレート	7.8

各種工程
(遮熱仕様・一般仕様)

遮熱仕様

- ・RSルーフ2液F
- ・RSルーフ2液Si



一般仕様

- ・RSプラチナルーフMUKI ※プラチナ会員限定
- ・RSルーフマイルド



特殊浸透補強成分を配合することで含浸・固化を強化して素地との付着力を強化。

色相



白(N-9.3近似)



グレー(25-75A近似)



赤さび色(09-30L近似)



黒さび色(19-20B近似)

※この色見本は印刷ですので、実際の色・艶と多少異なります。

RSルーフシールド	荷姿	主剤	14.4kg	素材適正	新生瓦	◎
		硬化剤	1.6kg		波形スレート	◎
性能		日射反射率(白のみ)	◎	日本瓦・洋瓦	×	
		耐チヅミ危険性	◎	モニエル瓦	×	
		防さび性	◎	カラートタン	◎	
		耐水性	◎	金属折板	◎	
		耐アルカリ性	◎	ガルバリウム鋼板※	◎	

※新設のガルバリウム鋼板には、「エボマリンGX」を推奨します。

- 可塑剤が多く含まれる部材(塩ビ鋼板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など)への塗装は避けてください。粘着や軟化が生ずるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。
- 塗料用シンナーで溶解する旧塗膜や下地の場合には塗装しないでください(チヂミ、ニジミ、中うみ、ワレ等発生する場合があります)。
- 粘土瓦(釉薬瓦、いびし瓦など)、洋風瓦には適用できません。
- 気温5℃以下(低温)、湿度85%以上(高温)での施工は避けてください。
- 屋外において降雨、降雪、強風の恐れがある場合は塗装を避けてください。
- 塗装間隔は環境(温度、湿度、換気回数等)や膜厚によって変わります。
- 所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などにより増減することがあります。
- 塗膜に降雨や結露の影響を受けた場合は、白化や艶引けなどの異状が生じやすくなります。山間部や河川近くなどの夜露の早くおこる多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。
- 気象条件によります。塗装作業は、原則として晴天日の日中午前9時から午後3時までの時間帯を推奨します。
- 秋期のような昼と夜の温度差が激しい時期は、結露による艶引け現象がおこり易いため、時間を考慮して塗装を行なってください。
- 本品は乾燥過程で水(降雨、結露等)の影響を受けると白化することがあります。白化した場合は軽く表面を研磨するなどの処置をしてから次の工程に移ってください。
- 塗装仕様書に記載の数値は標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅を生じることがあります。
- 塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行なってください。
- 塗装間隔は厳守してください。塗装間隔を過ぎた場合は目荒らしを行った後に塗装してください。また、塗装間隔が短い場合は、ちぢみ、ワレ、しわ等が発生することがありますのでご注意ください。
- 本品を塗装の際は、中途や上塗に塗り残しや塗げがないようご注意ください。塗り残しや透けがある場合、紫外線の透過によりシーラー塗膜が紫外線劣化を起こし層間で剥離が生じることがあります。
- 吸い込みのほげしい被塗物や新生瓦などの塗り替え時はシーラーを塗装後にガムテープで基材との密着性を確認し、ハガシが生ずる部分は塗膜を剥離し、その部分に再度シーラーを塗付してください。
- 新生瓦などの窯業系屋根材の重なり部の隙間に塗料が入り込んだままにすると、降雨の排水性が悪くなり、漏水を生じることがあります。そのため、塗装後に屋根材同士が接着した箇所を皮スキ、塗膜カッターで「縁切り」処理を行ってください。もしくは、塗装前に予め専用スペーサーを挟みこんだ後に塗装を行ってください。
- スノードクトのような勾配の殆ど無い屋根の塗り替えは、高い耐水性を要求されるため必ず下塗り1回、上塗り2回で塗装を行なってください。
- 積雪の荷重を最も受けやすい軒先の部分、瓦葺の凸部、はぜ部にはこすり付けるように増し塗りを行なってください。
- 遮熱塗料は遮熱効果を発揮させるため特殊な顔料を使用しています。また、専用下塗り塗色は機能面から白色であるため、上塗の塗付量が少ないと隠蔽性が不足し、本来の仕上りや発色性が得られません。塗装の際はスケヤかすれがないように注意してください。
- 遮熱性能は下塗りと上塗りの総塗膜により発揮します。下塗りは必ず専用のものをご使用ください。
- 防食性は膜厚に影響を受けます。素材のエッジ部などの薄膜になる形状には、増し塗りするなどして十分な膜厚を確保してください。
- アルミニウム、ステンレス、溶融亜鉛めっき、電気亜鉛めっきなどの非鉄金属素材に塗装する場合は入念な面荒しを行ってください。
- 折板屋根等のエッジ部等は、エアレス塗装ではスケ等が発生するため、刷毛ローラーで先行し増し塗りを行った後、エアレス塗装を実施して下さい。エアレス塗装を行った後に刷毛ローラーで補修塗りを行うと、補修箇所の色相が異なることがあります。
- ローラー塗装では同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なることを見ることがあります。
- 塗装方法により色相が変化する場合がありますので、一般部がローラー塗りの場合はできる

- 限り入り隅まで入れてください。
- 刷毛塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上り肌や色相に多少差が生じます。
- 気温の高い日や被塗物温度が高い場合は「スーパーノンブラ」をご使用ください。
- 塗り替え塗装の前に、必ず高圧水洗やブラシを用いて、被塗面の付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。下地調整が不十分な場合には塗膜剥離の原因となったり、光沢不足や色ムラが発生するなど異常を生じることがあります。
- 下地の劣化が著しく旧塗膜の密着不良が見られる場合は、脆弱塗膜を全て除去してください。
- 埃、油、樹脂等は、塗装前に溶剤拭きや水洗い(温水)等で十分に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。特にタンクの折り曲げ部分は埃や砂等がたまりやすいので入念な清掃を行なってください。
- 新生瓦などの窯業系屋根材では、高圧水洗後や、降雨、融雪などで屋根材の内部にしみ込んだ水分が短時間では抜けきらないため、晴天時に2〜3日程度乾燥させ、十分乾燥したことを確認した後に塗装を開始してください。乾燥が不十分な状態で塗装すると、塗膜のワレ、膨れ、ハガシ等の不具合が発生することがあります。
- 塗料にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ・藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。
- 洗浄後、新生瓦の破損、役物の釘浮き、シーリング切れなどチェックを行い、補修が必要な場合には適切な処置を行ってください。
- 塗装ダストなどの飛散防止、塗装面以外への付着防止のため必ず養生を行ってください。
- 遮熱塗料は、特殊な顔料を使用しているため、経年による変色色の傾向が一般塗料と異なり、経年でも若干ながら茶褐色の色味を帯びることがあります。しかし、遮熱性能や素材の保護性能への大きな影響はありません。
- ガルバリウム鋼板は素材自体が遮熱性と熱放射性に優れています。一般塗料に比べ「RSルーP2液F」等の遮熱塗料は遮熱効果を発揮しますが、素材自体と比較した場合、それほど遮熱効果は期待できませんのでご注意ください。
- 当社指定以外の材料を混合しないでください。仕上り性、付着性、耐久性など性能に支障をきたすおそれがあります。
- 低温時の使用では、硬化剤混合後、時間が経ってもゲル化しない場合がありますが、ポットライフを過ぎた塗料は使用しないでください。塗膜性能不良の原因になります。
- 主剤と硬化剤を規定の混合比率で配合した後、十分攪拌した後で塗装に使用してください。
- 主剤と硬化剤の混合比率が合っていない場合には、仕上り性、耐久性等の諸性能に影響しますので正確に計量し配合してください。
- 主剤と硬化剤を混合した塗料は、可使用時間内に使用してください。可使用時間を過ぎたものを使用すると性能低下などの不具合を起こすおそれがありますので廃棄してください。
- 規定範囲を超えて希釈すると、ハンキ・光沢低下・色味変化・ダシ・隠蔽力不足など仕上りに異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
- 塗料の希釈に「塗料用シンナーA」以外のシンナーを使用した場合、再溶解やチヂミ等の不具合を生じることがあります。
- 塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーをご使用ください。
- 材料は使用前に内容物が均一になるように十分に攪拌し、開栓後は速やかに一度に使い切ってください。
- 開栓後の塗料はできるだけ早く使い切ってください。また使用した塗料を元の塗料容器に戻さないでください。
- 現場での材料は、容器が密栓されていることを確認し、直射日光や凍結を避けた屋内の冷暗所で保管してください。
- 硬化剤は湿気を吸いやすいため、保管場所、保管状態に十分注意してください。また、湿気、水分と反応しゲル化変質しますので、開栓後は速やかに使い切ってください。
- 高圧水洗を行うと屋根が滑りやすくなりますので、足場には十分注意してください。
- 溶剤系塗料ですので、室内塗装では溶剤蒸気が滞留しないよう十分な換気をしてください。また、屋外塗装においても溶剤蒸気が換気口から流入しないよう養生を行ってください。
- 塗料が付着した布ウエス、紙、ローラーは引火、発火を防止するため水に浸漬するなどして安全対策を行ってください。
- 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- 製品的安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

- 【予防策】
- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護めがね・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
 - 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
 - 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
 - 火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
 - 火災を発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
 - 裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
 - 本来の目的以外に使用しないこと。
 - 指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
 - 任の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
 - 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
 - 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
 - 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。
- 【対応】
- 目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。

- 皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
 - 吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
 - 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
 - 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
 - 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
- 【保管】
- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手が届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
- 【廃棄】
- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)
- 【施工後の安全】
- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。
 - 例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

